

【原著論文】

## 保健体育科教諭の職務における期待認知に関する研究

### —A 地域中学校保健体育科教諭に着目して—

門屋 貴久<sup>1)</sup>, 後藤 彰<sup>1)</sup>, 依田 充代<sup>2)</sup>, 清宮 孝文<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 教職教育研究室

<sup>2)</sup> スポーツ社会学研究室

## Research on expectation awareness in the work of physical education teachers

—Focusing on junior high school physical education teachers in Region A—

Takahisa KADOYA, Akira GOTO, Mitsuyo YODA and Takafumi KIYOMIYA

**Abstract:** The objective of this study was to investigate the relationship between actions and expectations among physical education teachers and, further, to shed light on the relationship between teacher characteristics (sex and work history) and expectation awareness. Consequently, a questionnaire survey was administered to 105 junior high school physical education teachers in Region A.

The results showed that physical education teachers who were perceived as being more active in their work felt higher levels of expectation. Moreover, compared with the group with low levels of expectation awareness, the group with high levels of expectation awareness (as viewed by management) also had high levels of expectation awareness in the views of other physical education teachers, other teachers, students, and guardians.

Regarding the relationship between expectation awareness and sex, the overall trend showed that compared to female teachers, male physical education teachers felt higher levels of expectation.

Furthermore, the less work experience a physical education teacher had, the higher the level of expectation they felt from other physical education teachers with regard to school duties and student guidance.

(Received: October 28, 2015 Accepted: February 29, 2016)

**Key words:** physical education teachers, expectation awareness, work

キーワード：保健体育科教諭，期待認知，職務

### 1. 諸言（はじめに）

教員の職務は多岐に渡るが，その中心的な職務が教科指導であるということは言うまでもない<sup>1,2)</sup>。このことについては，多くの研究や著作物でも支持されている<sup>3-5)</sup>。これらのことから，教科指導を中心として他の職務とのバランスを図りながら「人格の完成を目指し，平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成」<sup>6)</sup>を行うことが教員の本務であると言える。

しかし，保健体育科教諭に着目すると保健体育科教諭への期待は，生徒指導や部活動指導に比重が多くとられていると言われている。石村ら（2007）は保健体

育科教諭について「特に生徒指導，部活動指導を体育科教諭が担当していることが多く，体育科教諭は，生徒指導，部活動指導の教員として他の教員・保護者・生徒などに広く認識されている」<sup>7)</sup>ということを明らかにしている。また，松田（2010）は「保健体育教師は一方で教科以外の面から『期待』を強く担わされており，教科の学習指導といういわば建前の面と生徒指導と部活動指導での役割を一番に求められているといういわば本音の意識が現場にはある」<sup>8)</sup>と述べていることから，保健体育科教諭は生徒指導や部活動指導の役割を求められていることが分かる。さらに，岩田（2014）は「学校現場の実態としては，体育授業よりも，こうした『生徒指導』や『生徒指導以外の校務分

掌』といった学校の管理・運営の業務に加え、運動部活動の指導や中体連・高体連に関わる業務への従事によって『自分の生活時間を確保する』ことが困難になり、悩みを抱える現状が窺える<sup>9)</sup>と保健体育科教諭が教科指導より生徒指導や部活動指導に従事することで悩みを抱えているとしている。

保健体育科教諭と部活動指導については、平川(2013)が「部活動の指導の成果が体育教師の評価とされることも多い<sup>10)</sup>」と言及しており、管理職からの保健体育科教諭への評価について沢田(2001)は、「学校内部での体育教師評価は、その専門性からして授業指導能力を中心に評価されるべきであるが、授業そのものは他教師の参観や介入を受け入れにくい『聖域』でもあり、また、実際に客観的評価そのものが困難であることが多い。そのため明瞭な指標としての過去の運動競技経歴と指導能力を短絡的に結びつけた体育教師評価がなされたり、運動部強化が体育教師に課せられた責務であると考えられるような体育教師文化が醸成され容認されていく社会的風土が築き上げられたりする<sup>11)</sup>」と述べている。また、保健体育科教諭の評価に関しては、教員評価システム<sup>12)</sup>において管理職の評価により、「昇任」や「昇給・降給」といった保健体育科教諭の現状が左右されるため、保健体育科教諭は管理職の期待を敏感に感じている現状が予測される。

そして、保健体育科教諭と生徒指導については山西(2015)が、「生徒指導＝保健体育科教諭」というイメージを前提に「そのイメージは体育科教師は怖いというものであり、それは体育科教師の長年の生徒指導によって『大人が作り、言い伝えてきたもの』<sup>13)</sup>」であるとし、「体育科教師の怖さや力による指導といった抑止力が生徒に効果的と考えられ、体育科教師は学校の『用心棒』と見られている<sup>14)</sup>」と述べていることから、力や怖さといった視点から考えると保健体育科教諭の中でも男性と女性では期待に違いがあるのではないかと推察される。

さらに、保健体育科教諭へのこのような期待や認識は、「体育」の歴史的背景にも関係があると思われる。今日の学校体育の前身は、1872(明治5)年「学制」の中において、「体術」という名称で小学校過程の中に教科として指定されたことに始まった。つまり、学制が敷かれ学校教育が行われるようになって、体育は、体術として学校の教科となり、身体操練が実施されたのである<sup>15)</sup>。戦争に耐えうる経済的にも強い国家をつくるために、この時代に求められた身体は、一条乱れず、同じ行動を取ることができるということであり、このような身体を作る為、体育は「身体の教育」として取り組まれ、当時の保健体育科教諭もそれに従事した<sup>16)</sup>。この時代の保健体育科教諭について小村(1972)は「兵役

体操や教練の修練とその指導を中心とした『軍人タイプ』<sup>17)</sup>と述べている。つまり、当時の保健体育科教諭は軍事的性格が強く、規律を重んじ、集団行動を規律訓練的に行い、自身に生徒を従わせていたということが推測され、このような歴史的背景が現在の保健体育科教諭への期待、特に保健体育科教諭同士の人間関係や上下関係にも少なからず影響していると考えられる。

中央教育審議会答申(2012)では、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」の中で、これからの教員に求められる資質能力として「学び続ける教員像<sup>18)</sup>」が明記されており、「教科や教職に関する高度な専門的知識や、新たな学びを展開できる実践的指導力を育成するためには、教科や教職についての基礎・基本を踏まえた理論と実践の往還による教員養成の高度化が必要である<sup>19)</sup>」としていることから分かるように、教員は学び続けて授業力量を形成していくことが求められている。しかし、須甲ら(2013)は保健体育科教諭が授業力量を形成していく上での大きな障壁について「学校文化や教員文化に起因する体育教師へのステレオタイプ的な役割期待(生徒指導部・運動部活動)」<sup>19)</sup>にあると述べているように、保健体育科教諭への役割期待が教科指導より生徒指導、部活動指導に比重が多くとられているという状況は、保健体育科教諭の授業力量形成に影響を与えるものと考えられる。

以上のことから、保健体育科教諭は学校内において生徒指導や部活動指導の役割を期待され、その役割を担うことで学校内での立場を確保しているということが推測される一方で、保健体育科教諭の職務における行動と期待の関係性を明らかにしている研究は数少なく、特に中学校保健体育科教諭を対象とした研究は少ない。保健体育科教諭が他教科教諭と同様に授業力量を形成にしていくためには、保健体育科教諭の職務に対する「行動」と「期待」の関係性を明らかにすることが重要であると考えられる。そこで本研究は、中学校保健体育科教諭(以下、保健体育科教諭)の「行動」と「期待」の関係性を示し、さらに保健体育科教諭の属性(性別・勤務歴)と「期待認知」との関係性を明らかにすることを目的とする。

尚、本研究における「行動認知」については、杉本(1988)の行為者が「ある状況に対して、実際にどう行動しているか」<sup>20)</sup>という定義を使用する。また、「期待認知」に関しては、杉本の「行動認知」を応用し、行為者が「ある状況に対して、実際にどう期待されているか」と定義する。そして、「役割期待」については「一定の地位を占めているものに期待され、何らかの拘束力をもつ規範的な行動様式をさしている<sup>21)</sup>」ということから、周囲(他者)から行為者への役割に対する期待とする。

## 2. 研究方法

本研究は、A 地域中学校体育連盟の協力のもと、郵送調査法による質問紙調査を行った。A 地域を調査対象に選定して理由は、A 地域が「①教育の中心的役割を担う都市」、②中学校の生徒数並び教員数が全国で最も多い<sup>22)</sup>という 2 点からである。

A 地域は、政治、経済、教育において日本の中心的存在である。特に保健体育科における教育という観点において、「オリンピック・パラリンピック教育」を全国に先駆けて導入し、保健体育授業の質的向上を推進している。また、A 地域における中学校の生徒数並び教員数は全国で最も多い。

さらに、A 地域の中から 5 地区を選定した理由は、A 地域全体の傾向を把握するためである。区部 4 つと支部 1 つに調査し、区部は学校数 10 以下 1 校、学校数 11 以上 30 以下 2 校、学校数 30 以上 1 校、支部は学校数 30 以上 1 校とすることにより、A 地域全体の傾向を把握することが可能であると思われる。

### (1) 調査対象者

調査対象者は、A 地域（5 地区）の公立中学校に勤務する非常勤講師を除いた常勤の保健体育科教諭である。また、本調査は中学校側の負担を考慮し、各中学校から 1 名の常勤の保健体育科教諭から回答を得た。質問紙を選定した 5 地区 140 校へ郵送し、回収数は 105 枚（75.0%）、有効回答数 105 枚（75.0%）であった。

対象者の属性（表 1）については、男性 73.3%、女性 26.7%であり、男性が女性の約 3 倍を占めていた。また、年齢に関しては、60 代が 1.9%と少なかったが、20 代から 50 代に関してはいずれも 25%前後であり大きな偏りは見られなかった。教員歴は 5 年未満と 30 年以上が 22.9%と最も多く、次いで 5-9 年の 19.0%という結果であり、勤務歴については 5 年未満が 61.9%と全体の 6 割以上を占める結果であったことから、若手教員からベテランの教員まで偏りなく調査結果が収集できたと言える。また、担任の有無については「担任あり」が 74.3%と 7 割以上が担任を行っており、校務分掌については生徒指導部が 68.6%と約 7 割を占めていた。そして、保健体育科教諭になった理由に関しては「部活動指導がしたかった」43.8%、「体育授業がしたかった」38.1%と大きく 2 分する結果であった。

### (2) 調査内容

本調査は、「日本体育大学ヒトを対象にした実験等に関する規定」に基づき、説明書、同意書、審査申請、研究計画書を提出し、倫理審査委員会の承認（承認番号：第 014-H03 号）を受け、2014 年 6 月 16 日～

表 1 調査対象者の属性

	n=105	f	%
性別	男性	77	73.3
	女性	28	26.7
年齢	20 代	23	21.9
	30 代	25	23.8
	40 代	24	22.9
	50 代	31	29.5
	60 代	2	1.9
教員歴	5 年未満	24	22.9
	5 年-9 年	20	19.0
	10 年-14 年	7	6.7
	15 年-19 年	14	13.3
	20 年-24 年	8	7.6
	25 年-29 年	8	7.6
勤務歴 (現任教)	30 年以上	24	22.9
	5 年未満	65	61.9
	5 年-9 年	36	34.3
	10 年以上	4	3.8
担任の有無	あり	78	74.3
	なし	27	25.7
校務分掌	生徒指導部	72	68.6
	教務部	16	15.2
	進路指導部	9	8.6
	保健部	5	4.8
	総務部	1	1.0
	その他	2	1.9
保健体育科 教諭志望理由	部活動指導がしたかった	46	43.8
	体育授業がしたかった	40	38.1
	生徒指導がしたかった	6	5.7
	その他	13	12.4

2014 年 7 月 18 日の期間で行った。

設問内容は以下の通りである。

1) 保健体育科教諭の職務における「行動認知」に関する設問

保健体育科教諭の職務における「行動認知」の設問は、「教科指導」、「部活動指導」、「担任業務」、「校務分掌」、「生徒指導」の 5 つに分類し設定した。この分類については、井谷（2005）<sup>23)</sup>や石村ら（2007）<sup>7)</sup>が保健体育科教諭の大きな役割として挙げた「教科指導」、「部活動指導」、「生徒指導」の 3 つに、教員における職務の観点から「担任業務」と「校務分掌」を加えたものである。なお、5 つの項目に対し、「とてもしている…4」から「まったくしていない…1」の 4 件法で設定した。

2) 保健体育科教諭の職務における「期待認知」に関する設問

保健体育科教諭の職務における「期待認知」についての設問は、「他の保健体育科教諭」、「他教科教諭」<sup>注1)</sup>、「管理職」、「生徒・保護者」の4つの他者と保健体育科教諭の職務である「教科指導」、「部活動指導」、「担任業務」、「校務分掌」、「生徒指導」の5つの項目に対し、「とても…5」から「まったく…1」の5件法で設定した。

(3) 分析方法

本調査により得られた結果については、IBM SPSS Statistics 22を用いてピアソンの積率相関係数を求めた。また、*t*検定および一元配置分散分析を行い、有意差の見られた項目についてはさらにBonferroni法による多重比較検定を行った。

尚、管理職からの期待認知が「高い群」と「低い群」の比較については、平均値で上位と下位に分類した。

3. 結果・考察

(1) 保健体育科教諭の職務における「行動」と「期待」の関係性

表2は、保健体育科教諭の職務における「行動」と周囲からの「期待」の関係性を明らかにするため、ピアソンの積率相関係数を求めた結果である。この結果から、全ての項目において有意な正の相関関係が認められた。これにより、保健体育科教諭は「期待」をより感じるとより「行動」を行う、もしくは「行動」をより行うとより「期待」を感じるということが明らかとなった。しかし、本調査で明らかになった関係性は、「行動」と「期待」のどちらがどちらに影響しているかということまで明確にできないため、「行動」と「期待」関係性を「役割」という観点から考察していく。

「行動」と「期待」の関係性については、谷田部(2000)が「社会体系の中で個人の占める位置が地位であり、その地位にふさわしいとされる行動様式が役割

(role)である」<sup>24)</sup>とし、「地位と役割とは概念としてまったく別物ではなく、社会体系への参与という同じ事柄の二面として相即的なものとして捉えられるのが特徴である。いいかえれば、地位は位置という静的で形式的な面であり、役割は行為という動的で内容的な面なのである」<sup>25)</sup>、「役割の遂行者からすれば、社会的に課せられる役割期待を本人が学習し解釈する役割認知の過程を経て、それを役割行為に移す」<sup>26)</sup>と述べている。さらに、野村(1998)が役割について「相手の関係において自分が担うことになる社会的カテゴリー」<sup>27)</sup>、「ある社会的場面において、地位を占めた行為者に対して集団や社会が準備し期待する行動様式(行動パターン)」<sup>27)</sup>であるとしている。つまり、社会で生活する人々は、その周りの人々からの役割期待にその行動が影響されるということである。このようなことから、学校という社会の中で保健体育科教諭の「行動」にも、周囲からの「期待」が影響しているということが推察される。

さらに、先行研究<sup>11,12)</sup>などから保健体育科教諭は自身を評価する存在である「管理職」の期待を他の者(他教科教諭、他の保健体育科教諭、生徒・保護者)の期待より強く認知していると推測されたが、管理職からの「期待認知が高い群」と「期待認知が低い群」で比べた結果、教科指導「他の保健体育科教諭 ( $t=6.47, df=102, p<.00$ )」、「他教科教諭 ( $t=7.65, df=102, p<.00$ )」、「生徒・保護者 ( $t=9.62, df=102, p<.00$ )」(表3)、部活動指導「他の保健体育科教諭 ( $t=7.84, df=95, p<.00$ )」、「他教科教諭 ( $t=8.98, df=86, p<.00$ )」、「生徒・保護者 ( $t=8.19, df=70, p<.00$ )」(表4)、担任業務、「他の保健体育科教諭 ( $t=6.11, df=102, p<.00$ )」、「他教科教諭 ( $t=9.12, df=82, p<.00$ )」、「生徒・保護者 ( $t=11.68, df=71, p<.00$ )」(表5)、校務分掌「他の保健体育科教諭 ( $t=11.08, df=60, p<.00$ )」、「他教科教諭 ( $t=8.94, df=76, p<.00$ )」、「生徒・保護者 ( $t=6.65, df=102, p<.00$ )」(表6)、生徒指導「他の保健体育科教諭 ( $t=7.27, df=102, p<.00$ )」、「他教科教諭 ( $t=8.51, df=57, p<.00$ )」、「生徒・保護者 ( $t=9.52, df=63,$

表2 保健体育科教諭の「行動」と「期待」の相関係数

職務	対象者の属性			
	他の保健体育科教諭 <i>r</i> 値	他教科教諭 <i>r</i> 値	管理職 <i>r</i> 値	生徒・保護者 <i>r</i> 値
教科指導	0.271***	0.339***	0.255**	0.220*
部活動指導	0.429***	0.439***	0.360***	0.305**
担任業務	0.507***	0.542***	0.561***	0.518***
校務分掌	0.449***	0.489***	0.414***	0.368***
生徒指導	0.250**	0.268**	0.240*	0.316***

\*  $p<.05$     \*\*  $p<.01$     \*\*\*  $p<.001$

表3 管理職からの期待とその他からの期待の比較（教科指導）

項目	高い n=62		低い n=42		t 値
	M	SD	M	SD	
他の保健体育科教諭	4.60	0.71	3.71	0.64	6.47***
他教科教諭	4.55	0.67	3.55	0.63	7.65***
生徒・保護者	4.65	0.66	3.38	0.66	9.62***

\*\*\* p&lt;.001

表4 管理職からの期待とその他からの期待の比較（部活動指導）

項目	高い n=49		低い n=55		t 値
	M	SD	M	SD	
他の保健体育科教諭	4.67	0.69	3.35	1.02	7.84***
他教科教諭	4.76	0.52	3.44	0.94	8.98***
生徒・保護者	4.88	0.39	3.62	1.06	8.19***

\*\*\* p&lt;.001

表5 管理職からの期待とその他からの期待の比較（担任業務）

項目	高い n=52		低い n=52		t 値
	M	SD	M	SD	
他の保健体育科教諭	4.54	0.83	3.40	1.05	6.11***
他教科教諭	4.77	0.58	3.29	1.02	9.12***
生徒・保護者	4.87	0.40	3.31	0.89	11.68***

\*\*\* p&lt;.001

表6 管理職からの期待とその他からの期待の比較（校務分掌）

項目	高い n=59		低い n=45		t 値
	M	SD	M	SD	
他の保健体育科教諭	4.85	0.41	3.36	0.83	11.08***
他教科教諭	4.76	0.58	3.44	0.84	8.94***
生徒・保護者	4.25	0.99	3.09	0.79	11.68***

\*\*\* p&lt;.001

表7 管理職からの期待とその他からの期待の比較（生徒指導）

項目	高い n=66		低い n=38		t 値
	M	SD	M	SD	
他の保健体育科教諭	4.73	0.74	3.63	0.75	7.27***
他教科教諭	4.79	0.54	3.55	0.80	8.51***
生徒・保護者	4.68	0.59	3.34	0.75	9.52***

\*\*\* p&lt;.001

p<.00)」（表7）となったことから、管理職からの「期待認知が高い群」の方が「期待認知が低い群」に比べて他教科教諭、他の保健体育科教諭、生徒・保護者からの「期待認知」も高いことが明らかとなった。つまり本調査結果からは、保健体育科教諭は特に管理職の期待をより強く感じ、より行動しているということ

はなく、保健体育科教諭は管理職を含めた周囲の人々からの期待を感じ行動している可能性が示された。

## (2) 保健体育科教諭の職務における「期待認知」と属性（性別・勤務歴）の関係性

表8は、「期待認知」と性別のt検定の結果である。

表 8 保健体育科教諭の期待認知と性別における比較

項目	男性 n=77		女性 n=28		t 値
	M	SD	M	SD	
他の保健体育科教諭 (部活動指導)	4.10	1.06	3.61	1.13	2.09*
他教科教諭 (部活動指導)	4.22	0.93	3.61	1.10	2.85**
管理職 (部活動指導)	4.20	1.03	3.64	1.19	2.32*
生徒・保護者 (部活動指導)	4.36	0.93	3.75	1.18	2.49*
生徒・保護者 (生徒指導)	4.30	0.86	3.86	1.01	2.22*

\* p<.05 \*\* p<.01

他の保健体育科教諭からは「部活動指導 (t=2.09, df=103, p<.05)」, 「校務分掌 (t=2.00, df=103, p<.05)」において, 他教科教諭からは「部活動指導 (t=2.85, df=103, p<.01)」, 「校務分掌 (t=2.18, df=103, p<.05)」において, 管理職からは「部活動指導 (t=2.32, df=102, p<.05)」において, 生徒・保護者からは「部活動指導 (t=2.49, df=39.99, p<.05)」, 「生徒指導 (t=2.22, df=103, p<.05)」において, それぞれ男性が女性に比べ有意に高い値であった。このことから, 全体的な傾向として保健体育科教諭は「部活動指導」において男性が女性に比べ, より期待を感じていることが明らかとなった。

このことについては, A 地域の中学校における部活動入部加入率<sup>(注2)</sup>が男子生徒 79.0%に対して女子生徒 58.3%であり, 一般的に男子生徒の部活動は男性教員, 女子生徒の部活は女性教員が顧問を務めることが多いことから, 教育現場において男性保健体育科教諭の方が部活動指導において活躍する機会が多く, 女性保健体育科教諭より男性保健体育科教諭の方が期待を感じているのではないかと推察される。

また, 生徒・保護者からは「生徒指導」において男性の方が女性より期待を感じているということが明らかとなったことから, 男性保健体育科教諭は女性保健体育科教諭より生徒・保護者から「生徒指導」において期待されていると認知している傾向がうかがえる。

片山 (2015) は「かつて学校が校内暴力に苦しんだ 1980 年代 (非行の第 3 の波の時期), 特に体育教師には力でもって子どもを制圧することが期待された。教

員を採用する際にも, 体育の授業がうまく行えそうかということよりも, 子どもを威圧できるかどうか, あるいは威圧できるほどの体格や風貌であるかといった点が有力な観点の一つであった<sup>(28)</sup>と指摘していることから, 「生徒指導 = 保健体育科教諭 = 子どもを制圧すること = 怖い・力がある (体格や風貌)」という保健体育科教諭に対するイメージが現在でも影響していると考えられる。このようなことから, 女性より男性の方が「子どもを制圧すること = 怖い・力がある (体格や風貌)」という認識のもと, 生徒・保護者から「生徒指導」において女性保健体育科教員より男性保健体育科教員の方が期待をされている可能性がうかがえる。

表 9 は, 保健体育科教諭同士の関係性について, 「期待認知」を勤務歴で比較した結果である。「校務分掌 F(2, 102)=3.38, p<.05」において有意な値が見られ, 「5 年未満」, 「5-9 年」が「10 年以上」に比べ高い値を示した。また, 「生徒指導 F(2, 102)=3.09, p<.05」においても有意な値が見られ, 「5 年未満」が「10 年以上」に比べ高い値を示した。このことから, 保健体育科教諭は勤務歴が短いほど他の保健体育科教諭から「校務分掌」や「生徒指導」において期待されていると認知していることが明らかとなった。

一般的に, 勤務歴が長くなればなるほど, 職務に対する期待を受けると考えられるが, 本調査からは反対の結果が示された。これについては, 保健体育科教諭の勤務歴が短いほど生徒指導において期待され, 勤務歴が長くなると, 次に赴任してきた者に期待していく

表 9 保健体育科教諭の期待認知と勤務歴の多重比較

	5 年未満 (A)		5-9 年 (B)		10 年以上 (C)		F 値	多重比較
	M	SD	M	SD	M	SD		
他の保健体育科教諭 (校務分掌)	4.26	0.87	4.22	0.87	3.00	2.31	3.38*	C<A,B
他の保健体育科教諭 (生徒指導)	4.38	0.76	4.33	0.93	3.25	2.06	3.09*	C<A

\* p<.05

といった構造の存在が推察される。生徒指導について、山西(2015)は「『学級・教科指導』より、生徒指導を優先することに負担を感じている」<sup>29)</sup>ということや「生徒・保護者が指導理由・方法に納得せず、保護者がすぐに文句を言うてくることも大きな負担になっている」<sup>29)</sup>と述べていることから、保健体育科教諭にとって「生徒指導」は負担やストレスが大きいと思われる。また、「体育」の歴史的背景やスポーツの世界における上下関係が、保健体育科教諭同士の間関係にも影響しており、「生徒指導」に対し保健体育科教諭の中で勤務歴が長い者が、勤務歴が短い者に対して期待するという構造の存在が考えられる。しかし、このことについては本調査結果から明らかにすることができず推測の域を出ないため、今後さらなる調査・分析が必要である。

#### 4. 結 論

本研究の目的は、保健体育科教諭の「行動」と「期待」の関係性を示し、さらに保健体育科教諭の属性(性別・勤務歴)と「期待認知」との関係性を明らかにすることであった。その結果を以下にまとめる。

1. 教科指導、部活動指導、担任業務、担任業務、生徒指導のすべての職務において、保健体育科教諭の行動と期待には関係性があるということが示された。また、より期待を感じている保健体育科教諭の方がより行動していることが明らかになった。
2. 管理職からの「期待認知が高い群」の方が「期待認知が低い群」に比べて他の保健体育科教諭、他教科教諭、生徒・保護者からの「期待認知」も高いことが明らかとなったことから、保健体育科教諭は特に管理職の期待をより感じ、より行動しているということではないことが推測された。
3. 保健体育科教諭は「部活動指導」において男性が女性に比べ、より期待を受けていると認知していることが示された。また、生徒・保護者からは「生徒指導」においても男性の方が女性より期待を受けていると認知していた。
4. 保健体育科教諭は勤務歴が短いほど他の保健体育科教諭から「校務分掌」や「生徒指導」において期待されていると認知していた。

以上のことから、保健体育科教諭の「行動」と周囲からの「期待」の関係性、そして、属性における差異が明らかとなった。しかし、松田(2008)が「体育教師が必要と感じている指導力は、教師の属性や学校の設置されている地域で異なるのである。一般的な『体育教師の指導力』を考えることはもちろん大切だが、その際忘れてはならないことは、『体育教師』にもいろいろあり、そのいろいろに応じて、学校からの期待と

して感じる指導力の必要感が、また多様に存在しているという事実であろう。一つの視点からのみ、体育授業や体育教師の力を論じがちな現在、留意しなければならないことだと思われる」<sup>30)</sup>と指摘していることから、保健体育科教諭への役割期待を一つの視点から考えるということには危険性を伴うため、今後違う視点からの様々な調査研究が重要であると思われる。

#### 謝 辞

本論文の執筆にあたっては、本論文の調査にご協力頂きました東京都中学校体育連盟事務局並びに東京都中学校体育連盟関係者各位に心より御礼申し上げます。

#### 注 記

- 注記1) 「他教科教諭」については、学校内における保健体育科以外の教科の教諭を示している。
- 注記2) A 地域における部活動入部加入率については、A 地域が発表している平成 27 年度の生徒数と日本中学校体育連盟が発表している平成 27 年度 A 地域部活動加入生徒数から算出した。

#### 引用・参考文献

- 1) 文部科学省初等中等教育局教職員課 パンフレット「教員をめざそう!」: 3-4. (平成 25 年 9 月 3 日) [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/miryoku/1283833.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/miryoku/1283833.htm)
- 2) 文部科学省「今後の学校の在り方・教員の職務の在り方」(平成 26 年 3 月 15 日) [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/052/houkoku/08091011/002.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/052/houkoku/08091011/002.htm)
- 3) 服部次郎, 高校教師の心得—高校教師の仕事とは—, 教員養成セミナー, 10: 138, 2009.
- 4) 平井貴美代, 教師の条件—授業と学校をつくる力—(第 3 版), 第 6 章 教師の職務, 105-106, 学文社: 東京, 2008.
- 5) 小林達俊, 教師教育改革のゆくえ—現状・課題・提言—, 第 1 部 第 3 章 果たしていかなる改革が必要か, 70, 創風社: 東京, 2006.
- 6) 文部科学省, 中学校学習指導要領, 2, 東山書房: 京都, 2008.
- 7) 石村雅雄・山西哲也, 体育科教員の役割意識について, 鳴門教育大学研究紀要 22: 51, 2007.
- 8) 松田恵示, 免許更新制と現職教員の力量体育科教育学研究, 26(2): 65, 2010.
- 9) 岩田昌太郎, 中高の保健体育教師の意識調査から見てきた体育授業への問題・関心の現実, 体育科教育, 62(7): 40, 2014.
- 10) 平川穰, なぜ体育に関心を持ってない教師が多いのか, 体育科教育, 61(8): 10, 2013.
- 11) 沢田和明, 体育教育を学ぶ人のために, 第 11 章 体育教師論—体育教師はどのように作られ, 利用されてきたか—, 213, 世界思想社: 京都, 2001.
- 12) 文部科学省「教員評価システムの取り組み状況」(平成 26 年 10 月 12 日) [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/](http://www.mext.go.jp/b_menu/)

- houdou/22/10/attach/1298542.htm
- 13) 山西哲也, 生徒指導を担う体育科教師たちのホンネ, 体育科教育, 63(1): 19, 2015.
  - 14) 山西哲也, 生徒指導を担う体育科教師たちのホンネ, 体育科教育, 63(1): 21, 2015.
  - 15) 前橋明, 体育・スポーツ史, 第3章 第1節 日本の近代体育とスポーツ, 102. 西日本法規出版:岡山, 2001.
  - 16) 西島康之, 体育の意義の変遷と体育教師の力量の関係性. 現代社会文化研究, 37: 21-22, 2006.
  - 17) 小村渡岐磨・古谷嘉那・井上一男, 体育教師像の変遷, 日本体育学会, 24: 2, 1973.
  - 18) 中央教育審議会答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」2012年(平成25年8月28日) [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325092.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325092.htm)
  - 19) 須甲理生・四方田健二, 体育教師が有する教師観に関する一考察—運動部活動指導者としての教師観から授業者としての教師観へ—, 日本女子体育大学紀要, 43: 42, 2013.
  - 20) 杉本厚夫, 体育教師の社会的アンビバランス—社会的役割に対する認知的不一致—, 京都体育学研究, 4: 2-3, 1988.
  - 21) 森岡清美, 塩原勉, 本間康平, 新社会学辞典, 1431, 有斐閣:東京, 1993.
  - 22) 文部科学省「学校基本調査(平成27年度速報)」(平成27年9月28日) <http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/NewList.do?tid=000001011528>
  - 23) 井谷恵子, 体育教師の男女不均衡を生み出すジェンダー・カルチャー, 教育学研究, 72(1): 27-39, 2005.
  - 24) 谷田部武男, 社会学の理論, 第3章 地位—役割と社会構造, 46, 有斐閣:東京, 2000.
  - 25) 谷田部武男, 社会学の理論, 第3章 地位—役割と社会構造, 46-47, 有斐閣:東京, 2000.
  - 26) 谷田部武男, 社会学の理論, 第3章 地位—役割と社会構造, 51, 有斐閣:東京, 2000.
  - 27) 野村一夫, 社会学感覚(増補版), 195, 文化書房博文社:東京, 1998.
  - 28) 片山紀子, 徒指導と体育の接点を求めて, 体育科教育, 63(1): 14, 2015.
  - 29) 山西哲也, 生徒指導を担う体育科教師たちのホンネ, 体育科教育, 63(1): 20, 2015.
  - 30) 松田恵示, 学校が期待する体育教師の指導力, 体育科教育, 56(7): 20, 2008.
- 
- <連絡先>  
 著者名: 門屋貴久  
 住 所: 東京都世田谷区深沢 7-1-1  
 所 属: 日本体育大学教職教育研究室  
 E-mail アドレス: t-kadoya@nittai.ac.jp